

1	地震はたくさんの命を奪うため、早めの防災が必要だと思いました。公助+自助の共助が特に欠かせない行動だと感じました
2	自分は阪神淡路大震災を経験していないけど、経験した方々からの話を後の世代の人々に語り継いでいかなければいけないなと思いました。
3	このような学習を何回もしているけど今回の学習は凄く心に刺さりました。この辺が火の海になった、大地震だった、などは知っていることだけど1番印象に残ったのは助け合いです。神戸新聞が困ったら、京都新聞が助けたとゆう話を聞いてやっぱり助け合いが大事、助け合いができる仲間を作ることが1番大切だと思いました。そして最後に『喧嘩したりしても、すぐ謝りなさい。』と聞いて、やはり身近な人を当たり前だと思わず、特別な存在だと意識しないといけないと思いました。いつ地震が起こるか分からないし、いつ大切な人を失うか分からないので、日々を大切にしたいと思います。そして、校外学習でははじめをつけて災害学習に取り組みたいと思います。
4	阪神淡路大震災と能登半島地震が同じような景色だということを実感に残りました。 阪神淡路大震災を経験していないけど後世の人たちにこの出来事があったことを伝えていきたいと思いました。
5	非常食を今のうちに買って置こうと思いました
6	自分達は経験したことがない規模の震災の話で印象に残った
7	震災の記憶をわすれないために、僕も語り継いでいかなければいけないなと思いました。
8	少しでも地震が落ち着いて行動することが大切だと思いました
9	校外学習に向けてもっと調べてみようと思いました。
10	能登半島地震の時の避難所が30年前と変わっていないと言っていて写真を見たら段ボールで仕切りができたくらいでほとんど変わっていなかったのが驚いた。避難所まで手が回らないかもしれないけど、災害関連死が多いので対策が必要だと思った。
11	僕たちが聞いた話をかたりついでいきたい
12	僕は実際に阪神淡路大震災などの大規模な地震は体験していないけど、これから南海トラフ巨大地震で体験していくかもしれないし過去の教訓をちゃんと聞き入れていきたいとおもった

13 災害関連死など阪神淡路大震災でできた言葉が多くあることが印象に残った

14 亡くなった人の話など色々聞いてよかった

15 今高齢化が進んでいる中でどんどん年を重ねるたびに昔の地震を経験している人が少なくなっている。そこで私たちにできることは今地震を経験した人の話を聞いてそれを新しい世代の人に話す。

16 72時間以内に助かれば、助かる命の可能性が広がる

17 地震は怖いいろいろなことを学びました

18 ラジオの音声がリアルで怖くて印象に残った。

19 今回は動画を見るとかじゃなくて実際にお話を聞く感じで少しリアルな感じで怖かったしやっぱり地震って怖いなと思いました。  
自分たちで出来ることは早めに対策していきたいなと思いました。

20 震災は簡単に人の命を奪い、今あるものを破壊していくものなんだと実感した。自分の家でも防災対策をしたり、地域の人と協力することも大切だと思った。

21 自分たちは震災を実際に体験していないので、聞いたことを語り継ぐことが大事だと思います。そのために校外学習でしっかりと学びたいです。

22 阪神淡路大震災の出来事が繊細にわかり当時の怖さがとても伝わってきました。  
これからの南海トラフに対しても準備をしていかないといけないと思いました、次は大阪や、和歌山などが被害が大きくなるのでこちらからも支援をしていかないといけないと思いました。  
今からできることを探し実行していきたいです

23 今回講演をしていただいた記者のような人たちの話を後に語り継いで、今後災害の被害をできるだけ減らしていくことが大切だと、改めて感じました。喧嘩したままの大切な人が、被災して永遠に会えなくなるかもしれないから、ありがとうやごめんなさいを大切にしてほしいという言葉が印象的で、今後このような言葉をなお一層大切にしようと思いました。

24 新聞社の方が震災の時にこんなにも気力をもって、正しい情報を伝えるという方法で県民を支えていたことに驚きました。どんな

職業でも支えられることを知りました。

25 震災が自分の思っているよりも死人や行方不明者が出て、津波は3メートル以上の高さで中学生だったら余裕で死んでしまうということを知って対策や逃げる場所を事前に考えないといけないなと思いました。震災で亡くなった人たちが生きたかった今を大事にして、自分たちが生きている今は奇跡が重なってできたものだと思ったので一日一日を大事にしながら生きていこうと思いました。

26 能登半島地震が起きた時、阪神淡路大震災の時と変わっていないというお話を聞き、教訓を活かしていないのが良くないと思った。いつか起きる南海トラフ巨大地震に向けてしっかりと教訓を活かしていくことが大切だと思った

27 今の年代に生まれた人達は震災を体験したことが無い人が多いので、こういった話はとても貴重な体験だと思った。体験した人の話を次の世代にも受け継いでいかなければいけないと思った。

28 SNSで生き埋めになっているなどの偽情報が大量に投稿されていたのが怖いなと思いました。SNSが普及して便利になっているけれど、使い方を間違えると大変なことになってしまうんだなと思いました。

29 震災の話はいつ聞いてもすごく怖いと思うし、自分にも無関係なことではないと改めて感じました。南海トラフ地震ももうすぐおこるから、その時に少しでも被害を減らせるようにしたいです。

30 実際の被害についての話が心に残りました。  
私たちはまだ大きな震災を経験したことがないからこそ、被災した人の話は貴重だと思いました

31 震災の被害で大変な目にあった人がたくさんいたからその援助などもできない状態が続くから震災の本当の恐ろしさが感じられました。この30年で80%の確率で起きる南海トラフ地震を予想しているからそこで地震が起きた時の準備が大切だと思いました。

32 実際に経験をしていないからその時の気持ちなどはわからないけど、経験した人から直接聞いて南海トラフが来るし教訓として活用していきたいと思いました

33 新聞社がつぶれて大変だったのに何とかして町のみんなに今の状況を伝えようと頑張っていたんだなと感心しました。

34 これまでの、教訓を生かして備えることが大切だと思った。そし

て、亡くなってしまった方々を忘れない。

35 小学校の頃から震災のことについて（阪神淡路大震災など）は学習してきました。

今回は新聞社が震災が起きた時にどんなことをしているのかどんな記事を書いているのか知れました。新聞社は震災の被害を受けた人が元気になるような取り組みをしていたことを初めて知りとても素晴らしい取り組みだと思いました。

36 私たちは阪神淡路大震災を経験していないけど、経験した人から聞いた話をほかの人に広めることはできると思った。いつか経験した人がいなくなっても、人へ人へとつないでいきたい。

37 写真をたくさん見せてもらって当時どのような状況だったのかよくわかりました。

38 今までで地震を数回しかないけど、記者の方たちがより詳しく講演をしてくださったので、もし地震が起きた時に生かそうと思いました。

39 地震の時の録音された音声だったり、地震の怖い印象がより一層怖くなった。

40 大阪の人たちはみんな家族や友人が心配で公衆電話に並んでいて、一刻でも早く電話したいはずなのに、新聞記者の方なら先に行っていていいですよ。と言ってくれた人がいて改めて日本の人は親切で思いやりのある人ばかりだなと思いました。

41 毎日、僕たちが安心して暮らせているのは、震災後に復興の活動を頑張ってくれた人たちのおかげで、その人たちが何もしてくれなかったら今の自分たちは、いないということが改めて分かりました。

なので、今自分たちにできる若い世代に伝承するということを大事にして、震災で亡くなった人たちのためにも毎日を一生懸命生きようと思いました。

感謝、そして謝罪という死ぬまでにしかできないことを日々の生活で大事にしていきたいと思いました。

今回の授業を見て、僕たちが毎日生きているような平和な日々は、たった一つの出来事や災害あるいは、震災で簡単につぶすことができるということを改めて学びました。

もう、震災で人々がなくなるのは、いやなので、日々の生活から地震に対する備えを今日っかすることが大事だと思いました。



42 普段新聞からまとめたりすることがないため、いい経験になった。

地震はいつ来るか分からないため日頃の準備が大切だと思った。

43 最初にお話をしてくださった親子のお話で苦しいお話だったなと思いました。助けたいのに、自分が小さいから助けられず、助けが必要なのはわかってるけど、見殺しにするしかないのはとても辛いことだし、私は無理だなと思いました。こんなお話はめったに聞けないので貴重な体験になりました。

44 大震災を経験した人たちはどんどん減っていくので今回のような講演会を通して、少しでも詳細に震災のことを伝えられるようにしたいです。

写真をたくさん見て大丈夫だと思っていたものが崩れていたのが怖いなと思いました。

45 このことをしっかり伝えていくことが大切だと思いました。

46 震災の日自分はその日いなかったから受けてないがその日の経験や辛さなどを感じました

47 こんな貴重な話を聞ける機会はなかなかないと思うので今回の話を大切にして校外学習でもしっかり震災のことについて勉強したいと思います。

48 小さな判断でも、それがよくなかったら死んでしまっていたのかと思うと、南海トラフ地震がより怖くて身近に感じました。一日一日を大切に生きないといけないと思います。

49 最近のニュースでは、新聞やテレビに対しての悪いニュースが多いけど、新聞局はできるだけ正しい情報を流そうとしているんだということがわかりました。

50 次、来ると言われている南海トラフ地震に備えて準備しておけば安心できると思いました

51 震災関連死という言葉をはじめてきました。避難所が30年前と変わっていなかったのが驚きでした。震災関連死というのをなくすためにももっと改善すべきだなと思いました。防災省みたいなのもできたので台湾かどこか忘れたけどその国は避難所がとてもきれいなので見習ったらいいと思います。

52 震災を経験する人が少なくなっていく中で僕たちがまた伝えていくことが大切だなと思いました。

地震が起こった時に京都新聞と協力していると聞いたので、地震の時は協力が大切だなと思いました。

また、これからの南海トラフに向けて今からでも対策できるようにしたいです。

53 今回話を聞いてより一層いつどこで来るかわからない地震がいつ来てもいいように備えようと思った。あと、3月の校外学習で阪神淡路大震災の体験ができるので、みんなが体験した恐怖を体験という形ではあるけど学ぶことができるのでしっかりの目に焼き付けようと思った。

54 印象に残った話は何を新聞で伝えるかなどです。自分たちは聞いた話を受け継ぐことが大事なことだと思いました。新聞は重要な役割なので大切だなと思いました。

55 能登半島地震と阪神淡路大震災は似てるということが印象に残った。

自分たちには災害に備えるために、震災について深く知ることが大切だと思った。

これからの活動は自分たちには何ができるのかを考えながら取り組んでいきたい。

56 印象に残る話はできるだけ信用できる情報を届けることが大事

57 一つ一つの言葉がとっても刺さりました。映像などをみていると本当に今が当たり前ではないということをとっても実感しました。喧嘩したときとかは強がったりせず、謝ったり話し合ったりとちゃんと素直になって謝るのが一番だと思いました。

58 阪神淡路大震災では火災が多かったことをはじめで知りました。震災が起こったことでできた法律のようなものも出来たのでこれからの震災への準備の気持ちが引き締まった気がします。

59 地震で多くの建物が崩れて壊れたのが印象的です。大きなビルが時間がたつにつれて壊れていったのが衝撃でした。

60 30年は決して忘れる口実にはならない。災害で親しい人々を失う事は、想像できないほどの苦しみだと思います。それが目の前でならもっとだし、逆に分からない所で亡くなってしまうのもまた別の辛さがある。それを自分の親や自分自身、友に味わわせないために、学び、伝えてつなぐことが大事だと思った。

61 全然知らない話を聞いてよかった備えることは大事だと思った

62 「今を生きる」この言葉が強く印象に残っています。「もしかしたら今地震が起こるかもしれない、明日かもしれない、だからこそ今を大切に生きてほしい。」このような言葉はいろいろなところで聞いてきたのですが、今回は特に心に響きました。阪神淡路大震災から30年、今も元に戻っていない人やものがあるなか、今、そしてこれからをどう生きるかしっかり考えていこうと思います。

63 話している記者の人が、もし、その時いつも通り寝ていたら、亡くなってしまっていたかもしれないという話が印象に残っています。そこから、やはり、地震はいつ来てもおかしくないということを実感しました。記者の人も言っていましたが、この大震災のことを語り継いでいくということを守っていき、これからもある命を助けることをして行ければいいなと思います!!

64 震災は改めてとても恐ろしい事だと思いました。僕たちはこれから未来の子供たちに伝えていかなければいけないなと思いました。何かあった時には協力がとても大事だと思いました。

65 今までの震災の勉強よりもっと鮮明で身近に感じる話だった。南海トラフが起こると予想されている今、何ができるか考えようと思った。

66 30年たった今でも状況は改善されていないという言葉が刺さりました。

いつ来るか分からないから対策が必要なのに  
人々は準備をしていない状況にショックを受けました。

67 震災の状況を新聞にして被災者の安心安全を守ることが大事だということ初めて知りました。ほかにも貴重なお話を聞かせてもらい、よかったと思いました。

68 備える非常食

69 当時のラジオの音声や様々な被災地の写真などを見て、実際にこの町で起こったことなんだと改めて自覚しました。知らなかったではなく、今まで知ろうとしなかったんだなと感じました。これから、自分たちは語り継がないといけない世代なので、もっとよく知って、よく考えていかなければいけないと思います。

70 阪神淡路大震災で窓ガラスが割れたり、高速道路が根こそぎ倒れた話が印象に残りました。自分たちは、各家庭で食料や飲料を備蓄し、いつ地震がきてもいいように部屋の中で落ちてきそうな家具などを固定することがこれからできることだと思いました。

71 記者ではタイミングが大切

72 やっぱり地震はいつ起こるかわからないし、止めることもできないから、いつ来てもいいように防災グッズなどを備えておこうと思いました。

73 地震を体験した方のお話は、ニュースなどで何回も聞いていましたが、実際に震災を体験した方の話を聞くと、感じるものが全然違いました。実際に地震の時のラジオの音声や、地震が起きた後の街の光景の写真を見ていると、地震の大きさが手に取るように分かりました。

地震で犠牲になった方々の人数があまりにも多く、地震の残酷さを改めて感じました。

今回お話を聞いて、これからも震災の話を受け継いでいきたいと思ったのと同時に、きっと私たちが生きているうちにも、「南海トラフ地震」という大きな地震が来ると思います。

いつ地震が来てもいいように、今のうちに備えておこうと考える良い機会になったと思います。

74 印象に残ったことは改めて多くの方が犠牲になり兵庫県の広い範囲で被害があったことが印象に残っています。自分たちにできることは防災バックとか地震が起きた時にどこに集合するかをもう1回家族と確認したいです。

75 きょうの震災体験のおはなしをきいたりみたりして 地震は怖いとおもいました。

本でみたことのある写真がうつりました。体育館が避難所になっている写真です。

震災のことをわすれないようにしたいとおもいました。

76 震災の話をきいて怖かったです

火事の話聞いて、はやくにげないといけないとおもいました。とにかく、地震の話聞いて怖かったです。

77 震災が実際に起こったときにも、SNSでのフェイクニュースが多いという話が印象に残りました。

SNSは、役立つ情報や面白い情報もたくさんあるけれど、その分危険なことや人を惑わす情報もたくさん流れていると思うので自分で判断したり、フェイクニュースが流れないようにしてほしいです。



78 火事の画像や高速道路から落ちかけているバスの画像が印象に残った。

窓ガラスが沢山割れていて怖かった。

阪神淡路大震災の話を直接聞くのが初めてだったので、色々と衝撃を受けた。

79 ボランティアの心が薄まっていてはいないかという話で自分がやるのは当然だけど周りの人にも広めていかないといけないと思いました。

80 震災を次の人に伝えていこうとおもいました。

81 すごく怖いので、しっかりと備えるのが大切だと思った。

82 自分は阪神淡路大震災の事を知らなくてテレビでしか見たことがなくて昨日の講演で当時の状況がよくわかりました。

83 災害時にも新聞が出せるように、別の会社も協力しているのを初めて知ったから驚きでした。

84 大震災が起こった時でも新聞の発行を続けていたことを初めて知り驚きました。

85 震災の話は何回か聞く機会があったけれど、ほとんどの人が言っていたのが、震災のことを忘れずに、自分たちより若い世代にまた伝えていくこと。そろそろ南海トラフが起こるらしいし、大きい地震も自分事に考えて校外学習に臨みたいと思います。

86 ほとんどの人が知っている落ちそうなバスの映像も印象に残ったけどだんだん倒れていった建物の写真がとても印象に残りました。建物ってそんなに時間差で倒れるんだなって思ったし、新聞とかないとどれだけ大きくても地震とかは起こっていなかったものになるんだなと驚いた。

87 僕たちが生きている間に南海トラフ地震が来るので、地震の対策を改めてしないといけないなと思いました。地震はいつ起こるか分からないので、今生活している環境で起こったらどうするかを考えて生きるようにしたいです。

88 私は大きな震災を体験したことがありません。昨年石川・能登半島地震が起こった時、私はリビングでゲームをしていました。いざ揺れ始めても「なんか揺れてるー」と言いながらゲームをそのまま続行していました。今思うと、とても危ない行動だったなと思いました。もしこの後、震度6~7の地震が来ていたらリビングに居た私はテレビや照明の下敷きになっていたかもしれません。この前、ネットニュースで日本人は地震に対する警戒心がとても薄い。という記事を見ました。確かにプレートが多く重なる日本では地震というものはそんなに珍しいものではないです。だから大きな地震が来た時に私の様に「まあ、大丈夫でしょ」という気持ちが働いてより大きな被害がでるのかなと思いました。もっと日本の震災による被害を減らすには「まあ、大丈夫でしょ」という気持ちを持っている人を減らすことが大事だろうなとおもいました。

私の様に大きな震災を経験したことの無い世代に、大丈夫じゃないことをつたえることはとても大事だなと感じました。

89 起きるまえに事前に荷物の確認をしたりハザードマップの確認を必ずしようと思います。

90 震災を実際に経験していなくても、とても恐ろしいものだなと思うことができた。起きたのが昔で、新聞しか情報がない中で、いち早く正しい情報を届けようとするのはすごいなと思いました。自分たちも被災していてしんどい中、ほかの被災者のために頑張っって新聞を作るのはすごいなと思いました。実際に経験していないからこそ、地震を甘く見るのではなく、できる対策はやっておきたいなと思いました。

91 能登半島地震と阪神淡路大震災の被害や避難所があまり変わっていないことに驚きました。

「何十年もあったのに私たちは何をしていたんだ」という言葉が印象に残りました。

92 神戸の町があんなことになっていたのはしっていたけど地震が起きた時の話がけっこうなまなましくて初めて知ったように思った。

93 きょうの震災体験のおはなしをきいたりみたりして 地震は怖いとおもいました。

本でみたことのある写真がうつりました。体育館が避難所になっている写真です。

震災のことをわすれないようにしたいとおもいました。

94 僕たちが震災の思いを引き続きたいです

95 震災関連死といって震災では助かったのにも関わらず亡くなってしまうのは非常に可哀想だと思いました。いつ地震が起こってもいいように日頃から備えておくことが必要だと感じました

96 お話を聞いて、地震の大変さや、悲しみを感じました。私達は、阪神淡路大震災は経験していないけど、しっかり覚えておく必要があると思いました。地震を経験した方々から話して頂いた事を忘れないで、私達が次へと伝えていく必要があると思いました。

97 その時に何をしていたかがリアルに話されて怖かった。自分たちは働けるので災害が起きたときはしっかり動いて役に立ちたいです。

98 実際に地震を体験している記者さんが言っていることなので説得力がすごかった。特に災害の教訓を能登の時はあまり活かせていなかったので他人事じゃなく僕らがしっかり覚えとくのが大切だとおもいました。

99 地震の時に新聞がたくさんの人々の協力を得て作られていることを知りました。話してもらったことを次へと生かし、地震が来た時にしっかりと過ごしたいと思いました。

100 実際にラジオの音声などを聞いてとても怖く感じました。

101 語り継いでいくことが大切だといっていた。

102 能登半島地震と阪神淡路大震災は何も変わっていないと聞いて、その通りだと思いました。大切なのは経験を活かすことなので、次はこれだけの犠牲を出すことのないようにすべきだと感じました。

103 阪神淡路大震災ではなくなっている人の中、災害関連死約900人ものが数が、亡くなってしまっている。せっかく生き残ったのに災害が起きたせいでなくなってしまう。自分がそうになってしまったり周りの人がそうになってしまったらと思うととても悲しい思いになりました。

104 私たちの住んでいるこの町に映像で見たような高速道路が崩れていたり火災の被害があったことがわからないくらいに復興していて人々の努力を感じました。私たちはこの講演会で学んだことを

忘れずにいろんな人に伝えていくことが大切だと思いました。